

平成19年度第4回新宿区外部評価委員会会議要旨

<出席者>

外部評価委員（15名）

卯月会長、名和田副会長、岡本委員（第2部会長）、入江委員、大塚委員、川俣委員、小菅委員、須貝委員、富井委員、中原委員、鍋島委員、芳賀委員、山下委員、山村委員、渡辺委員

事務局（3名）

森企画政策部特命担当副参事、関原企画政策課主査、宮森企画政策課主査

<場所>

区役所本庁舎6階 第2委員会室

<開会>

1 ヒアリングの進め方についての確認

【会長】

本日は、ヒアリングです。先にお送りしているスケジュールのとおり、部会ごとにへやを分かれて、実施します。部会の進行は、部会長にお任せします。部会は、11時40分までに終了して、また、こちらの会場へ戻っていただき、全体会をやりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

2 各部会によるヒアリングの実施（第2回部会）

各部会の会議概要のとおり

<全体会にもどり、各部会の報告>

【会長】

では、ヒアリング等もご苦労さまでした。第一部会なんか、もうあっという間にたってしまったと、なかなか難しいものだなと思いましたがけれども。

残り15分ほどございますので、ごくごく簡単に各部会の印象を聞こうということでございます。

では、第1部会からやらせていただきます。これ全部言っていたら、もうまたこれで15分ぐらいたっちゃうので、ちょっと、印象だけですが、各委員の方がいただいた回答でもちょっとまだ不十分であるというようなところを中心に質問していただいたんですが、

なかなかその回答というのを、今日初めていただいたので、きちっと読み込む時間もなかったということで、ちょっとその辺つらい部分がありました。

したがって、こちらの質問に対してすべてきちっと時間内で回答いただいたかどうかは、ちょっと不確かな部分もあります。

ただ、私は皆さんのやりとりを聞きながら、実は評価の視点というのがございましたよね、4つほど。その4つほどをこうにらみながら話を聞いていました。なので、ちょっとそっちのほうの視点から見てみると、皆さんこの4つの視点ってございますか、お手元に。1つがサービスの負担と担い手、2番目が適切な目標設定、3番目が効果的・効率的な視点、目的の達成度と4つあったんですが、僕はやっぱりサービスの負担と担い手というところで、特にリサイクルの問題で行政がどこまでやるのか、民間にどこまでお願いするのか、あるいは集団回収という町会を中心とするところの整理がもう少しあってもいいのではないかと。例えば段ボールとか新聞紙とか、結構相場によってかなり違っているというご指摘がありまして、それにあまりかわらず一斉に助成金が出ている。それはやっぱりもうちょっと見直したほうがいいのではないかとというものに代表されるように、サービスの負担と担い手というところは、かなり重要なご指摘であったと思います。

あと、防災についても防災サポーターというところで、量が足りているのかという話とともに、量ではなく質というのも失礼な言い方だけど、質だというようなお話もあって、行政だけでは担えない部分をどのように区民ボランティアによって担うかというところに対する指摘というのが、もうちょっとここはあってもよかったかなという意味で、一番目はもう少し、ということがありました。

2番目の適切な目標設定、これは特にみどりの部分で出たと思います。例えばこれは緑被率という言葉がよく出てきているのに、成果指標には緑被率という目標が掲げられていないとか、あるいは仮に掲げられていなくても、短期の1年の目標ではなく中期の目標としてもっと明確にすべきではないかというご指摘がありました。

私も思ったんですが、CO₂の削減というようなことも、もう大きな国家目標で数値が出ているわけですので、やはり新宿区のみどりのレベルでもCO₂の数値設定というような目標設定も必要な時代ではないだろうかというふうに考えますと、この成果指標というのは、今申し上げたCO₂とかいう大きな目標と、それから個別に何とかの親水公園がいくつ、何㎡整備されましたという個別の目標とちょっとランクが違うものがないまぜになっているような印象もあるので、この辺の整理が必要ではないかということがありました。

3つ目の効果的な視点、事業が効果的かという意味では、百人町の防災の中で、防災性能を上げるということでかなり成果を上げているんですが、オープンスペースの確保ということは非常にやりやすいんですね、買収しちゃえばできる。その比率はとても上がっているのに、百人町だけじゃないんですが、個別の建物の不燃化、建替えというのはあまり進んでいない。それはやっぱりPRが低いからだというようなことをおっしゃっているん

ですけれども、やっぱりもう少しコストパフォーマンスを考えたり、人、組織を有効に使っているかという、個別の建替えについてはあまり使われていないんじゃないだろうかというようなことが、きょうは指摘されたような印象があります。

4番目の目的の達成度というのは、ちょっと総合的な評価かなというふうに思いました。ちょっと独断と偏見で言ってしまいましたけども、すみません。

では、第2部会、いかがでしたか。

【第2部会長】

先ほどの委員長のご発言と重なるんですが、きょう回答書をいただいたということで、事業の説明を聞きながら回答書を見ているという形で、適切に質疑ができたかという、やはりその辺が難しかったということで、来年度以降は事前に回答書をこちらにいただいて、どういうふうにやりとりできるという部分があると思うんですね。この部分をもう少し回答してほしいとか細かくしてほしい。そういうものを文書のやりとりで少し回答書の質を高めるというんでしょうか、そういうのが必要ではないかというふうな印象を受けました。

また、ヒアリングの難しさなんですけれど、どこをどう聞いたらいいのかというあたりを、非常に私は個人的に感じて、また分野的に言いますと、福祉、子育て、教育ということで、結局税で賄える部分が多いサービスの部会になってしまうわけですね。NPO、ボランティアということで、市場原理の中でいくらか事業との関係というようなことも出てはきたんですが、その辺が十分にその部会によって、ここに書いてある担い手というあたりがうまくいくのかなという、もう今の会長の話を聞いて感じました。

その辺を中心という質問の仕方をしなかったものですから、なかなかうまく出てこなかったという面があります。

それと、内部評価の得点のとらえ方、A、Bとか1、2、3とかというのが適切かどうかというあたりまでは、なかなか今回のヒアリングでは難しかったんじゃないか。委員の中からはもっと内部評価を高くしてもいいんじゃないかという意見が出たり、その評価が例えば3がついている割にはBだったりとか、そういうものもあったりして、内部評価を評価するということの難しさというのを今回感じたというのが、私の感想でございます。

【会長】

では、第3部会、いかがでしょうか。

【第3部会長】

やっぱり個別項目というよりは課題のようなことを中心にお聞きしたと思います。

まず、政策そのものの議論をどうしてもしがちだと思うので、それはそれでやっぱり評価の観点からも意味があるんだけど、その評価の観点からということであまり追っていかねばならないなど。法律で禁止条例ってありますよね。喫煙防止、喫煙の条例ですか、あれなんかは、そもそもああいう条例がいいのか悪いのかという議論も当然あるわけで、それも分野別によってやっていいと思うんですけれども、それ自体はもう民主的に選

挙された議会が決めたことだから、それがけしからんじゃないかという議論は評価の枠内ではできないので、そうじゃなくて、じゃ、どうしていくかという。そういう評価としての議論のコントロールをやっていかなきゃいけないなと感じました。

実はちょっともっと具体的なことも言いたいんだけど、いや、それぐらいにして、それからもうちょっと評価としてどういう指標でやっていくかということの開発が必要な部分も、行政もそうだし、我々もそうなんですけれども、どういう指標で評価したらうまく評価できるのかということを考えていくべきこともあるなと。

例えば防災の地域防災の取組みなんかで、やっぱり説明しろと言われると、どうしても役人さんだったら、いや、何地域で協議会が立ち上がりしたとか、年に何回開催したとか、そういう答えにとりあえなくなったわけですね。

だけど、実際にはそこで何をやっているのかということを高められなければ評価にはならないわけなんですけれども、じゃ、中身が変わったということをどういう指標でとらえることができるのかとか、これを我々も行政も考えなきゃいけないという気がします。

それから、行政のほうも行政評価、内部評価をやるのはなかなか慣れていないことがあると思うんですけども、その行政評価のその区民への示し方の問題も結構あった。どういう出し方をしたら区民にとって理解しやすい評価になるのかということが、結構いくつかの論点であったと思います。

それから、行政側が政策そのものを変更した場合に、それをどういうふうに評価するかという。さっきの適切な目標設定でしたっけ。これの大もととなる政策が変更されたというときに、じゃ、変更してそのフォローはどうしたのかということが書かれていなかったりとか、政策の変更に対して我々委員としてどういうスタンスで評価すればいいのかとか、ちょっと難しいところがあるなという気がしました。

それから、これは言ってもしょうがないかもしれないけれども、区民の委員はやっぱり当事者でもあるんですね。その場合、外部と言えるのかどうか。外部というのは別につけた名前だからいいと言えればいいんですけども、どういう形で第三者性が担保されるかということも少し気にしながら議論をする必要があるかもしれないなと。やっぱりずっと地域で活動されてきておられる方ばかりだと思うので、役所の人とは顔見知りだったりとか、あるいはまさにその分野で一緒にやっていたりとか、なかなか物が言いにくい場面もあったのではなかろうかなと思って、そこを区民の立場でどう評価するかという、一種の基本姿勢みたいなものを共有する必要があるかなと思いました。

【会長】

結構、課題多いですね。

3 次回の確認

【会長】

さて、今すぐにその点は全部議論できないので、それは次回やるとして、28日に向け

て、事務局から、これからどうなるかお知らせいただければ。

【事務局】

28日は9時半からということで、この第2委員会室で予定させていただいておりますけれども、それまでに今日行いましたヒアリングについて取りまとめまして、皆様方のほうにご連絡を差し上げようと思っています。それで、それを見ていただき、意見等、あるいはチェックしていただいて私どものほうに返していただければと思っております。返していただいたものを、またそれを踏まえて修正をきかせるというような形をとりまして、今日やっていただいたヒアリングについても経過を仕上げたいと思っております。

そのヒアリングの仕上がったペーパーは、それをもとにして次回の11月28日、皆様方にここで議論していただいて、できればその中で委員会の中として外部評価結果というものをごついでにいただくというようなことをしていただければと思っております。

【会長】

ただ、今日のヒアリングの議事録みたいなものをまとめていただくだけでは答申みたいにはならないですね。

【事務局】

はい。まず、議事録的なものはとりあえず形としてつくりますけれども、そこで先に会長が4つの評価の視点からということで分けていただければということがありましたので、それを踏まえて答申できるような形のものは、こんな形かなというようなたたき台みたいなものもつくろうかなと思いますけれども、そちらのほうであれば事務局提案のもつくりたいかなと思いますけれども、その辺はどうでしょうか。

【会長】

ということは、議事録と答申案の案みたいなものを。

【事務局】

案の案みたいな、たたき台になるみたいなものを。

【会長】

事務局でつくられて郵送すると。それを見てやりとりして、28日に臨むという。

【事務局】

そうすると28日の議論が、その中で結構活発になるのかなと。そして、各部会の方々は、部会の中でどんな議論があったかというのはよくよくご存じですけれども。

【会長】

何か第1部会はちょっとテーマが多過ぎた感じもあって、いや、それはそれでよかったんですけど、でも本当に何か区長に向けて書くといったら、やっぱりもっとシャープに、あまりあいまいなことではなくシャープなことだけ、きゅっと書いたほうが明快なんじゃないかと思うんです。

ですから、ヒアリングした内容を、この事業を全部書くというより、さっきの4つの視

点と、ほかの部会から出たものをやっぱりつき合わせて、部会ごとにまとめるということが好ましいかどうかはまだわからないので、ちょっとその辺、工夫が要りますよね。

【事務局】

はい。最終的には外部評価委員会として出すことになると思いますので、そのときにそういうことが。

【会長】

28日、1回でちゃんと終わるかな。でも、終えなきゃいけないんだものね。

【委員】

よろしいですか。ですから、外部評価の役割というのは、区がおやりになった行政評価について点検すると、住民の立場に立って点検するという役割だと思うんですね。

ですから、各委員、今日ヒアリングしたと思うんですね。必ずしも十分でなかったのかもしれないけどもね。一応今日ヒアリングをやってみて、じゃ、今後、新宿区の行政評価をどうしていったらいいのかと、こういうことをやっていったらいいじゃないかとか、こういうことが足りないんじゃないかということとを事前に出していただくことが必要だと思うんです。

それを踏まえて、事務局のほうでおまとめいただくというのが基本的な手順ではないのかなと思うんですけれどもね。我々の意見だって十分今日は出尽くしたとは思えないですよ、区の行政評価についても、いろんな意見が出尽くしたとも思えないですね。

【第3部会長】

そういうのを1回挟むと、それだと28日では間に合わないの、やっぱり会長おっしゃるようにもう1回やらざるを得ない。今おっしゃったご意見に従って、我々の側がメモみたいなを出すというプロセスを踏むと、28日はそれをつき合わせてという感じになると思うんですね。その後、もう1回やって、事務局が答申案のたたき台みたいなを出して行って。

【会長】

でも、28日という日程自体も相当我々が投げかけて遅くしていただいた。来年度予算に反映できるということがあるので、やっぱりヒアリングした項目すべてではなくて、絶対ここは言っておかなきゃいかんというポイントを抑えて11月28日はまとめて、それ以降、来年度には直接反映できないかもしれないけれど、また来年度我々こういう評価をしていくときにやっぱり必要だということは、その11月28日以降、またまとめる機会があると思うんですね。やっぱりそれを分けてちょっと整理をしたほうがいいんじゃないかと思うんですけれどもね。

【第2部会長】

その場合、やはりコストに関して費用、例えば委託費用がどのぐらいか、適切かどうかというまでは、私たちの部会では判断できなかったんですね。これだけ委託を、この金額を出していますと言われても、それが適切な額かどうかというのはちょっと難しいので、

ちょっとコスト面に関しては今回、少なくとも第2部会のほうではやっていないですね。

【会長】

いいんじゃないですか。あくまで私が思うには、やっぱり限られた時間で限られたメンバーでやったので、その中でとにかくこれは絶対言っておこうというものだけ抽出してまとめて、ちょっと課題を残しながら28日以降やるということで。

でも、コストについても疑問であるというふうに出すことはできるわけであって、その詳細な検討はやっぱりできないですよ。

【第2部会長】

ちょっと難しい。

【会長】

いや、それはかなり厳しいと思いますよ。だから、先ほどのごみの問題も結構我々が持っている情報だけでも、相場が変わっているんだから全部同じ、一律はないでしょうという程度しか言えないんであって、じゃ、14円が10円になったらどうするとか、そこまて言えないと思うので、いいんじゃないかな、問題提起ですからね。

【事務局】

それでは、28日にやることと、それ以降も開かせてやっていただくようなことを分けて皆様方のほうにご提示するというような、そういう形でいかがでしょうか。先ほどのご意見のとおり、評価それ自体のことについて、それについては来年度どうあるべきかということ、28日以降もやろうと思えばできることでございますので。

【会長】

一応28日に、区でまとめていただく答申案というほど、そんな大げさなものじゃないんでしょうけど、でも答申案をベースにしてかな。

【事務局】

そんな感じですね。

【会長】

3人の部会長で、メールかどうかわかりませんが話して、目を通したものを28日にお出しするというふうにしましょう。

【委員】

事前にお配りいただけるわけですか。

【会長】

ええ、事前に配る。

【事務局】

ええ、まずまとめまして、今日あったことはすぐにお送りしまして。

【会長】

区だけでやっていただくと、議事録した人だけでやってしまいますので、部会長それぞれのお考え等おありでしょうから、一度、そのフィルターを通していただいて、まあ、時

間がないと思いますけれど、一度は目を通していただいて、答申案についてはまた事前に送っていただいて、28日に事務局は、できれば区長に渡したいとかとおっしゃっているので、本当にエッセンスだよということで限って答申をするというふうにご理解をいただかないと、なかなか難しいんですよ。もともとタイトなスケジュールなので、それでいいですよ。

【事務局】

はい。

【会長】

課題は課題として残して、次に送るべき課題も当然あると思いますので。

【事務局】

28日に区長に渡すことができるかできないか、できなければまた別の日を設定することはできますので。

【委員】

ちょっといいですか。先ほどの意見で、内部評価を我々は外部評価を評価するんだという視点に立つというお話があったんですけど、立つ立場が違うからそんなものは全然気にしないで、外部は外部の視点でやるだけで、内部評価に対しては何も影響しないでもいいと私は今まで来たわけだ、内部評価に対してはどうでもいいと。我々が言ってきたところは行政職にいないから、行政じゃないところから見たときの評価だから、独自性があるのもいいというつもりで来たんですけど、内部評価を頭に入れながら評価をするということが大事なんですか、そこら辺のところを方針を決めてもらわないと。

【会長】

それを考えるのが区長だと。

【委員】

そうですね、私どもの立場は。

【会長】

いわゆる我々が外部評価をするときのデータとして、内部評価の方法を一応勉強してヒアリングを受けた。だけど、その内部評価について、我々はちょっと違う意見を持っているよということを今回申し上げることが目的ですから。

【委員】

そうですね。わかりました。

よろしいですか。では、先ほどのご意見は。

【委員】

いいんじゃないですかね、それで。もちろんそういうつもりで私は言っているんですけどね。

【会長】

まあ、それで長い意味で内部評価もだんだん変わっていきなきゃいけないということは

もちろん、長期的な目標ではあるんですけども。

では、いいですか。もう繰り返しません、そうするとまたご連絡が行って、それに対して何かご意見があればいただくという日時があると思いますので、よろしくお願いします。

【事務局】

よろしくお願いします。

【会長】

それでは、第4回の委員会を終了したいと思います。

どうもありがとうございました。

<閉会>